平成 29 年度
第６回考古学講座

横浜市域の後期古墳
および横穴墓群について

元（公財）横浜市ふるさと歴史財団
鈴 木 重 信

古墳時代の開始年代は、近年の奈良県纒向遺跡（まきむくいせき）・箸墓古墳（はしはかこふん）などの研究により、３世紀中葉まで遡る可能性が高まっています。

一方、終末については、森浩一氏（1928-2013、同志社大学名誉教授）により考古学の時期区分として、ほぼ７世紀を「古墳時代終末期」とすることが提唱されています。文化史の区分による「飛鳥白鳳（あすかはくほう）文化」・政権所在地による区分の「飛鳥時代」とも重なり、やや複雑です。

横浜市域の古墳のうち、前方後円墳（ぜんぽうこうえんふん）は、前期の段階で限られた地域に少数築造されますが、中期から後期前半代には見られません。後期後半代に復活し、西暦 600 年前後には終焉を迎えたとみられます。中期から後期前半代には、やや大型な円墳や帆立貝形古墳（ほたてがいがたこふん）の可能性のあるものが見られます。横穴墓（よこあなぼ）は、６世紀後半から築造され始め、横浜市域では７世紀に盛行します。横穴墓は２～３基で１群をなす例もあれば、数十基で１群を形成する例もあります。後者は、神奈川県西部や各地に見られる「群集墳（ぐんしゅうふん）」に相当するものとみられます。横穴墓群には、丘上に古墳を伴うものもあります。

ここでは古墳時代後期から終末期（６・７世紀）の墓、つまり古墳と横穴墓をテーマに横浜市域におけるそれらの分布や特徴にふれ、いくつかの事例を紹介しながら地域の歴史の一コマについて考えます。

平成 29 年 12 月 16 日

吉 野 町 市 民 プ ラ ザ

【あらまし】

１　対象とする時期と地域について‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥資料Ｐ１・２

２　横浜市域の後期古墳・横穴墓群の分布‥‥‥‥‥‥‥‥‥資料Ｐ２

３　発掘された古墳と横穴墓群‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥資料Ｐ３～10

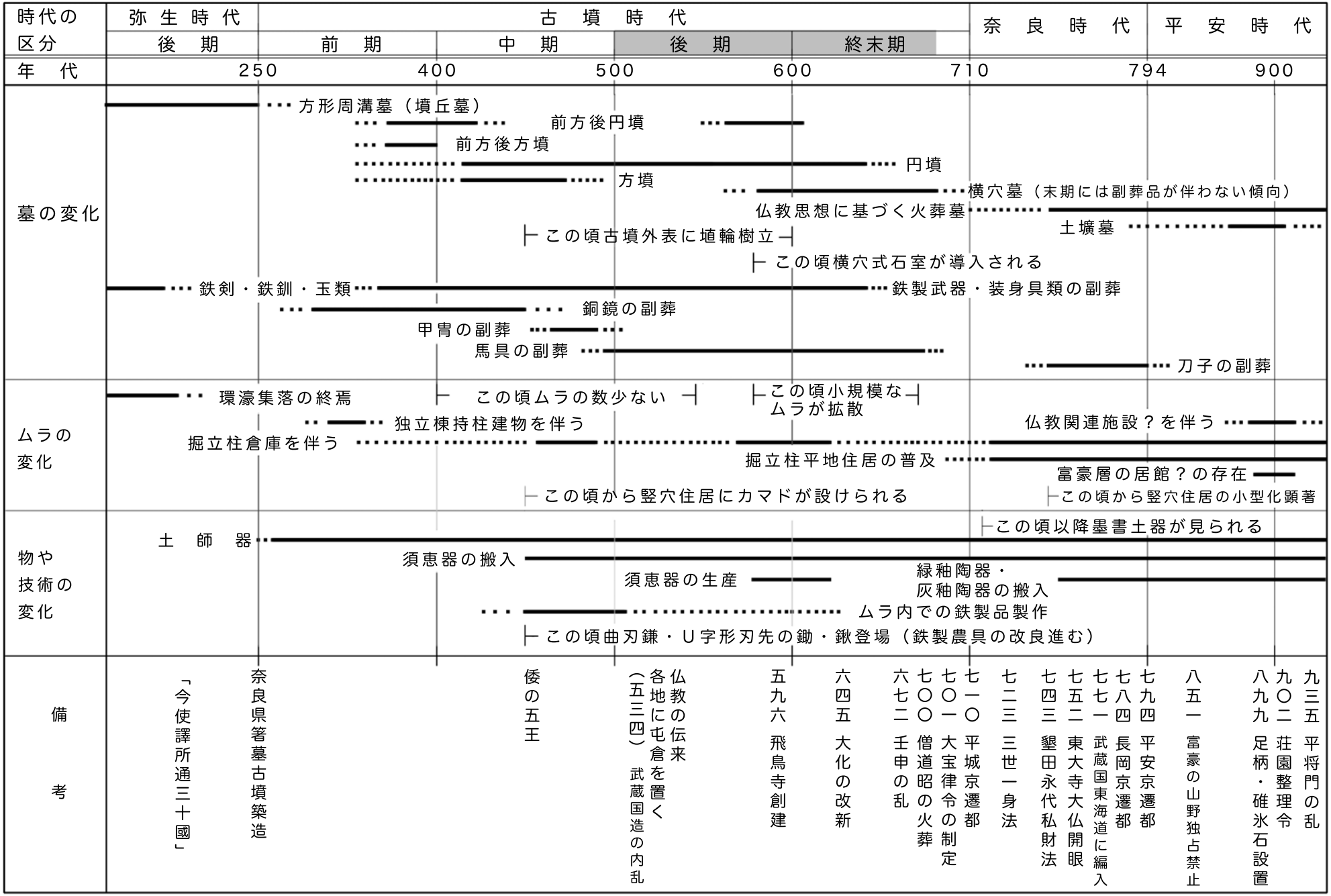
４　古墳と横穴墓共存‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥資料Ｐ11

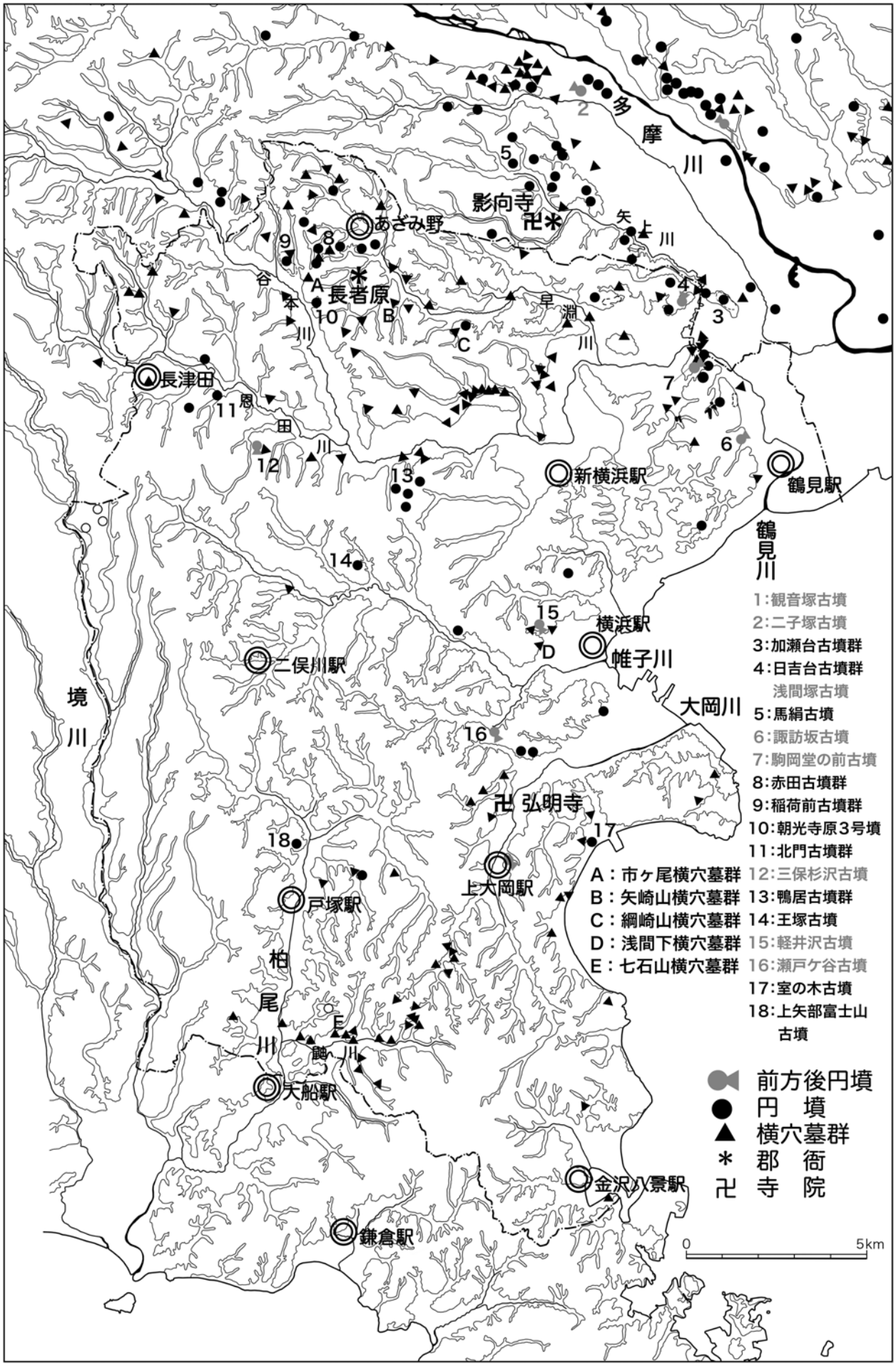
５　ま　と　め‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥資料Ｐ12

【主な参考文献・出典】

1　石野　瑛　1935「横浜市磯子区室の木古墳調査記『考古学雑誌』第 25 巻第 6 号
2　甘粕健　1965 「全掘された前方後円墳」『科学読売』17 巻 12 号
3　白石太一郎　1966「畿内の後期大型群集墳に関する一試考―内高安千塚及び平尾山千塚を中心として-」『古代学研究』42・43 合併号
4　神奈川県　1979『神奈川県史』資料編 20（考古資料）
5　日本窯業史研究所　1979　『三保杉沢遺跡群』
6　小野山 節　1979「鐘形飾付馬具とその分布」『MUSEUM』№.339
7　甘粕　健・田中義昭ほか　1982　「第２編　市カ尾古墳群の発掘」『横浜市史』資料編 21
8　大塚初重・小林三郎編　1982『古墳辞典』
9　港北ニュータウン埋蔵文化財調査団編　1986『古代のよこはま』
10　鈴木重信　1986　「第２編第２章　古代の港北」『港北区史』港北区郷土史編さん刊行委員会
11　吉田好孝・渡辺　務ほか　1990　『横浜市緑区　赤田の古墳』日本窯業史研究所
12　鹿島保宏ほか　1991　『鴨居原遺跡発掘調査報告書』横浜市埋蔵文化財センター
13　鹿島保宏・鈴木重信　1993　「横浜市綱崎山横穴墓群の調査」『第 17 回　神奈川県遺跡調査・研究発表会発表要旨』神奈川県考古学会
14　鈴木重信　1999「県史跡 市ヶ尾横穴古墳・稲荷前古墳群（横浜市）」『かながわ遺跡めぐり』神奈川県考古学会
15　横浜市歴史博物館　2001　『企画展 横浜の古墳と副葬品』
16　株式会社盤古堂　2007『横浜市緑区北門古墳群Ⅰ』
17（公財）横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター　2008『埋文よこはま』17
18　（公財）横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター　2015『埋文よこはま』31

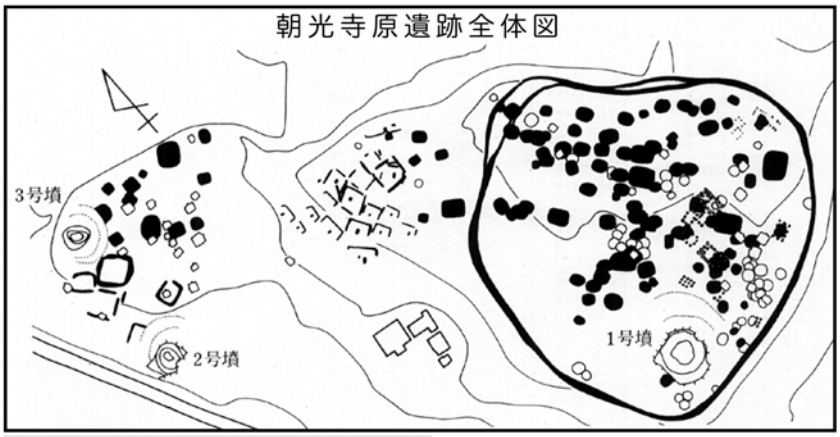
古代横浜市域の墓とムラなどに見られる変化




多摩川
影向寺
あざみ野
矢上川
谷本川
長者原
早淵川
長津田
恩田川
新横浜駅
鶴見駅
鶴見川
横浜駅
帷子川
二俣川駅
境川
大岡川
弘明寺
上大岡駅
戸塚駅
柏尾川
鶴ヶ川
天船駅
金沢八景駅
鎌倉駅
1:観音塚古墳
2:二子塚古墳
3:加瀬台古墳群
4:日吉台古墳群
浅間塚古墳
5:馬絹古墳
6:諏訪坂古墳
7:駒岡堂の前古墳
8:赤田古墳群
9:稲荷前古墳群
10:朝光寺原3号墳
11:北門古墳群
12:三保杉沢古墳
13:鴨居古墳群
14:王塚古墳
15:軽井沢古墳
16:瀬戸ケ谷古墳
17:室の木古墳
18:上矢部富士山古墳
A：市ヶ尾横穴墓群
B：矢崎山横穴墓群
C：綱崎山横穴墓群
D：浅間下横穴墓群
E：七石山横穴墓群
前方後円墳
円　墳
横穴墓群
＊　郡　衙
卍　寺　院
0
5km

中期後半～後期前半の古墳群

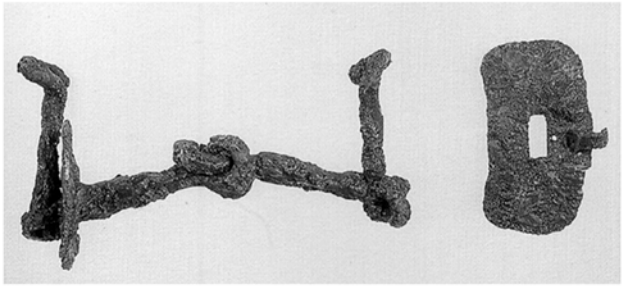
【図１ 朝光寺原古墳群（青葉区市ケ尾町）】 ＊文献９・15



← １号墳出土鉄製武具

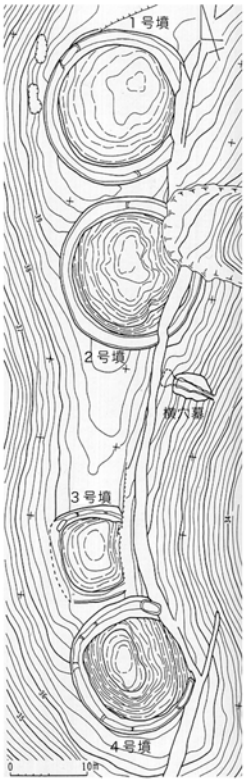
１号墳の埋葬施設と →
副葬品の出土状況

３号墳出土馬具 →
（剣菱形杏葉）



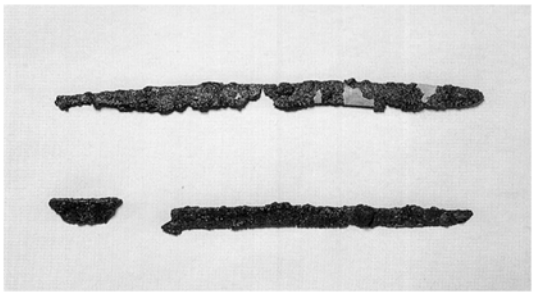
２号墳出土鉄製馬具（長方形鏡板付轡）

【図2 上の山古墳群（都筑区大熊町）】 ＊文献15



４号墳出土土師器

３号墳出土土師器

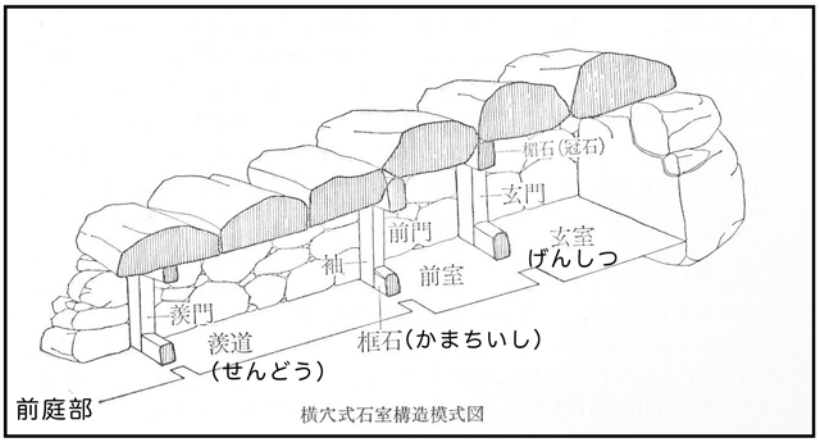


２号墳出土鉄剣（上）と鉄刀（下）

４号墳出土土師器

後期後半～終末期の古墳–横穴式石室の導入と展開－

【図３ 横穴式石室構造模式図】＊文献８に加筆



この模式図は複室構造の事例。基本的な平面構成は、玄室・羨道・前庭部（墓前域）からなる。閉塞は羨門（せんもん）部で行われる。追葬（ついそう）可能な構造となっている。

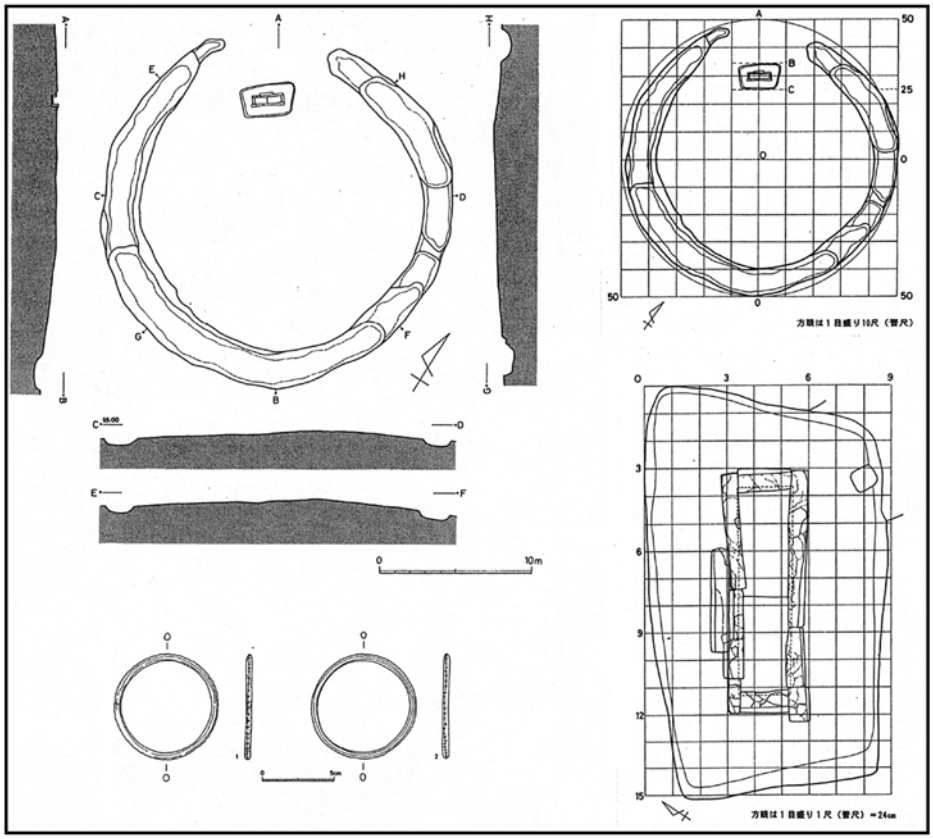
【図４ 横浜市域と周辺の横穴式石室分布図】＊文献10を改変

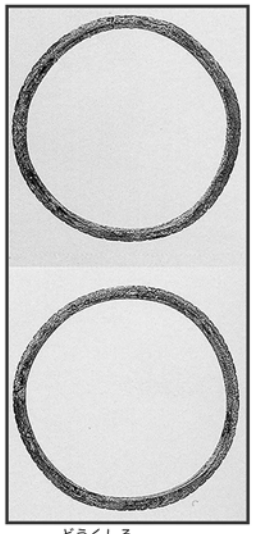
1:加瀬台３号墳
2:第六天古墳
3:馬絹古墳
4:法界塚古墳
5:赤田
１～３号墳
6:稲荷前
13号墳
7:北門（ぼっかど）１・２・５号墳
8:三保杉沢古墳
9:殿谷古墳
10:軽井沢古墳
11:室の木古墳

【図５ 鴨居原（かもいはら）古墳（緑区鴨居町）】＊文献12・15

古墳全景（北東より）墳丘は失われている。

埋葬施設（南西より）
墳丘北西の裾部付近に位置する。→

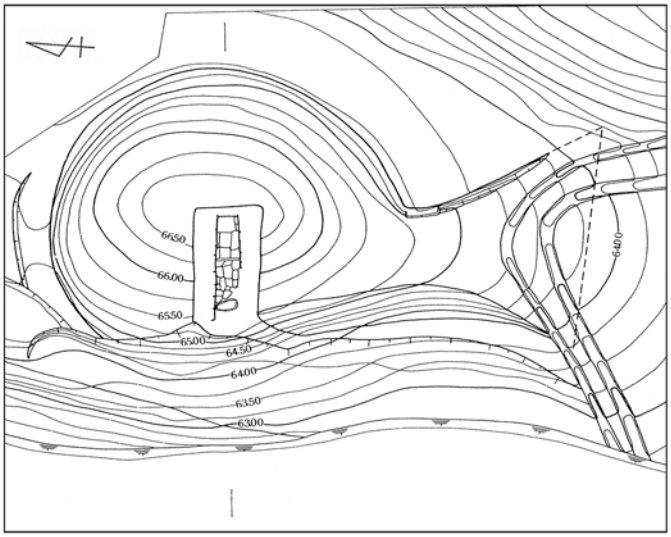




銅釧（どうくしろ）写真

←測量図と一対の銅釧実測図（左下）墳丘・埋葬施設とも24cmを１尺とする晋尺が整合する。

【図６ 三保杉沢古墳（緑区三保町）】 ＊文献５・９・15

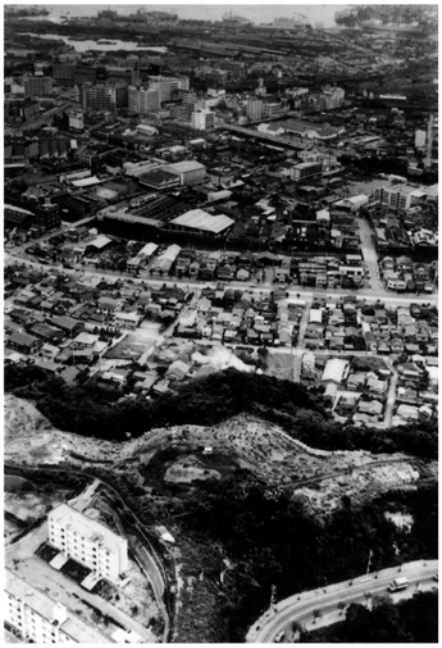


墳丘測量図　全長28m、後円部径約17.5m

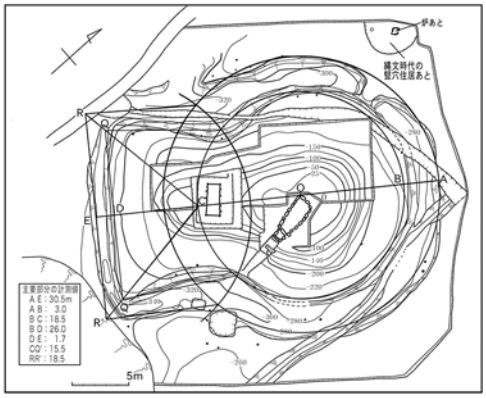
←横穴式石室近景
（西より）

円筒埴輪

【図７ 軽井沢古墳（西区南軽井沢）】 ＊文献２・９・15



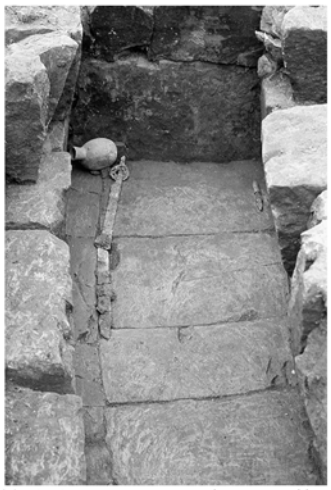
古墳全景１（北上空より）
画面上方に東京湾を望む。



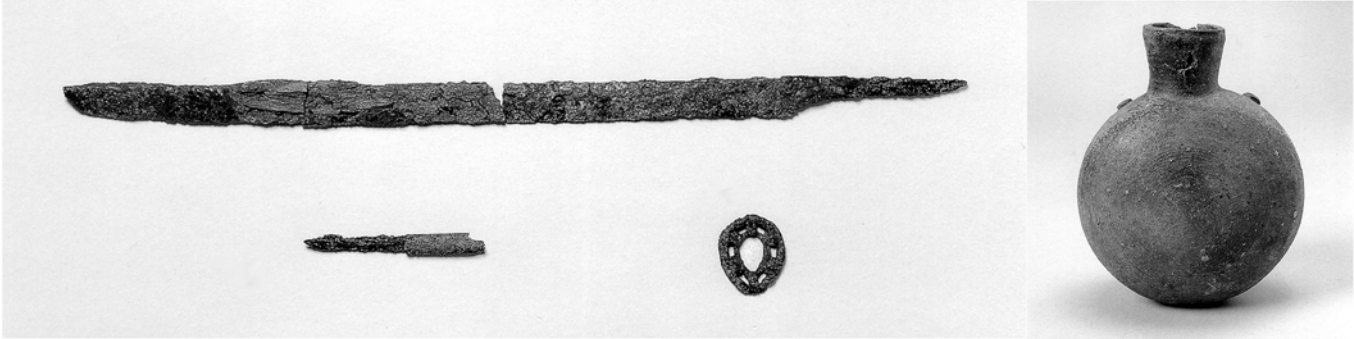
墳丘測量図

古墳近景（南東より）　左が前方部

古墳全景２（北北東上空より）

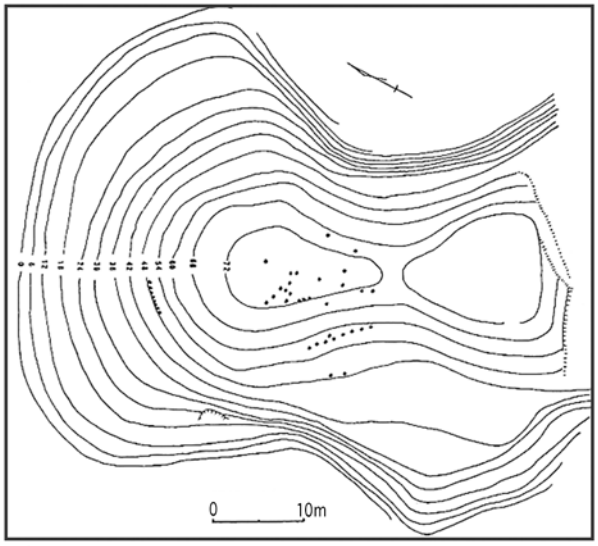


前方部竪穴式石室と副葬品



前方部竪穴式石室出土の副葬品　左上：鉄刀、中央下：六窓透鐔（ろくそうすかしつば）、左下：鉄製刀子（とうす）、右：須恵器提瓶（すえきていへい）

【図８ 瀬戸ヶ谷古墳（保土ケ谷区瀬戸ヶ谷町）】＊文献４・15

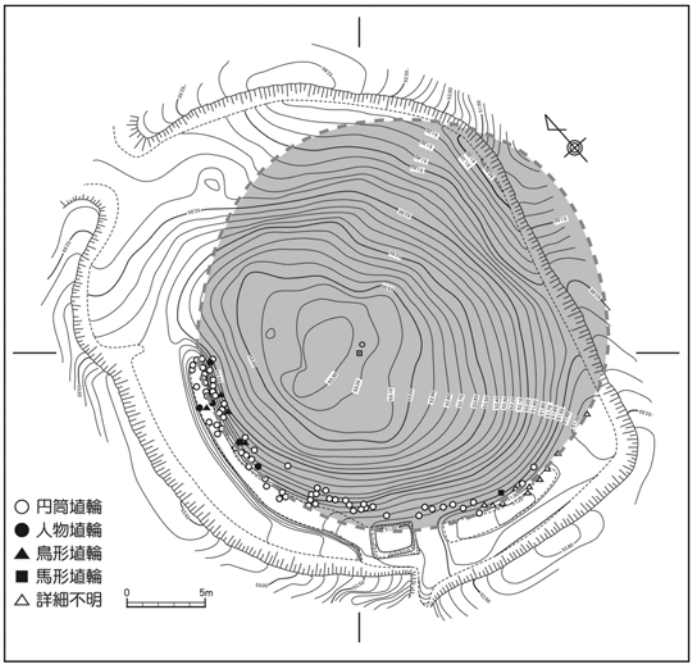


墳丘測量図　全長約41m、埋葬施設不明。

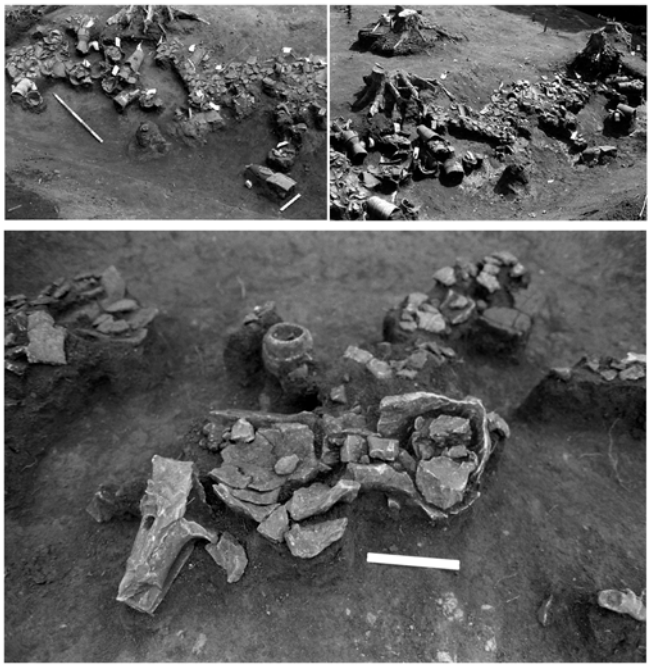
上段左から：帽子を被る男子・帽子形・太刀形・靫形埴輪
下　段　　：家形埴輪
＊太刀形埴輪の柄には帯があり三輪玉が付けられている。伊勢神宮の神宝に見られる。靫は矢を入れて背負う武具。

形象埴輪群

【図９ 上矢部富士山古墳（戸塚区上矢部町）】＊文献15・17（一部改変）

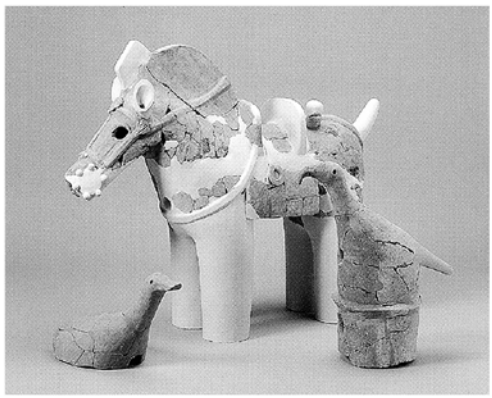


古墳近景（南東より）　墳丘径約34mの円墳と推定される。削平されていたため埋葬施設は不明。



周溝内埴輪出土状況

盾持ち人物埴輪

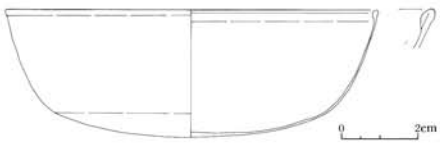


馬形埴輪・鳥形埴輪

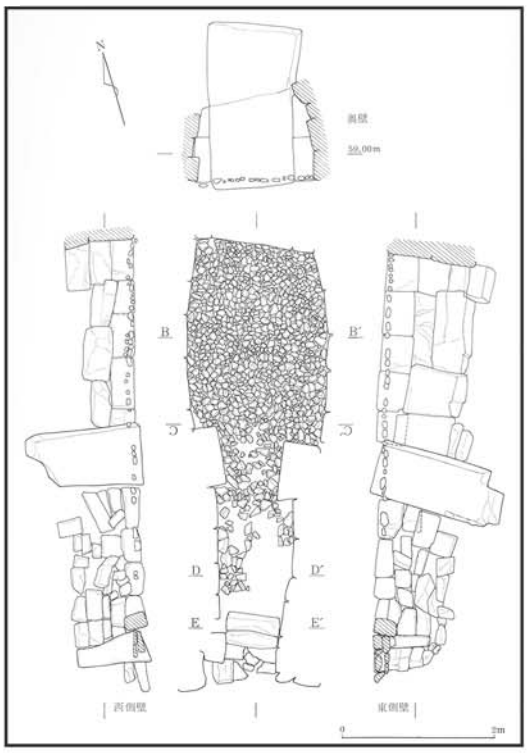
円筒埴輪・朝顔形埴輪

【赤田１号墳（青葉区あざみ野南）】＊**文献１１・１５**

墳丘近景　径約20m、高さ2.5m。周溝が巡る。

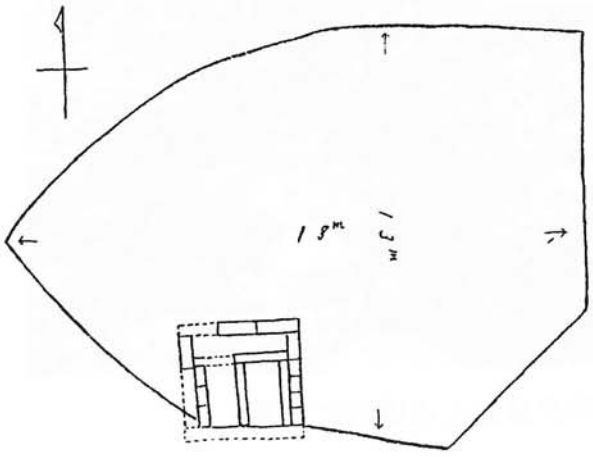


銅製鋺（かなまり）　銅鋺：仏器の一種。横穴墓からの出土例あり。



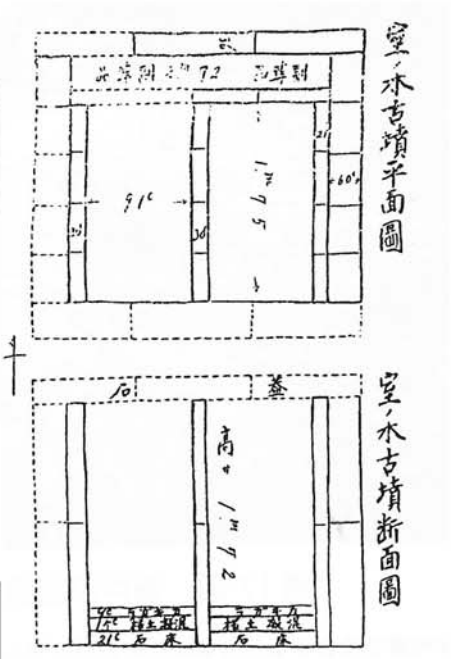
横穴式石室実測図

【室の木古墳（磯子区久木町）】＊**文献１・６**

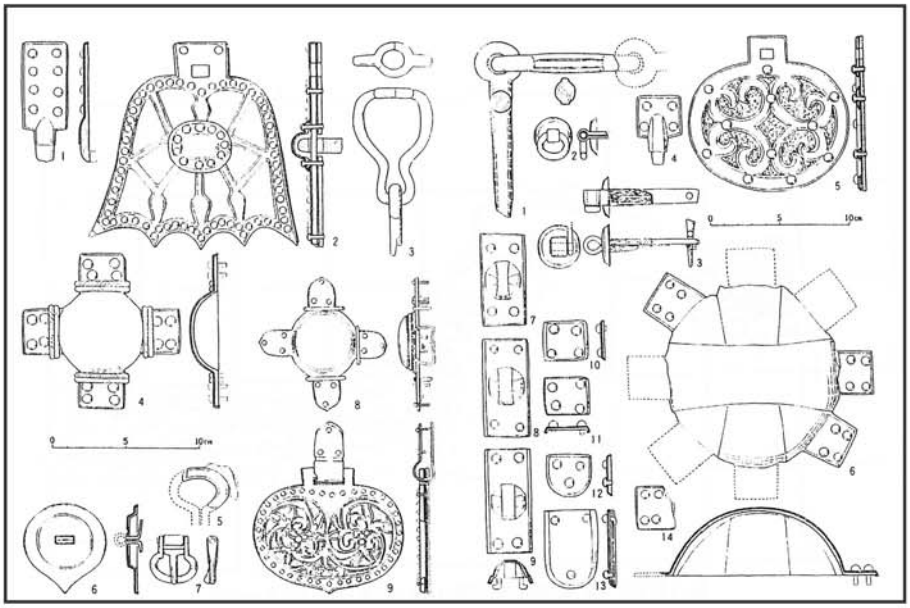


古墳の概形　墳丘径約30mの円墳と伝えられる。
昭和８年（1933）宅地造成により消滅。

人物埴輪頭部



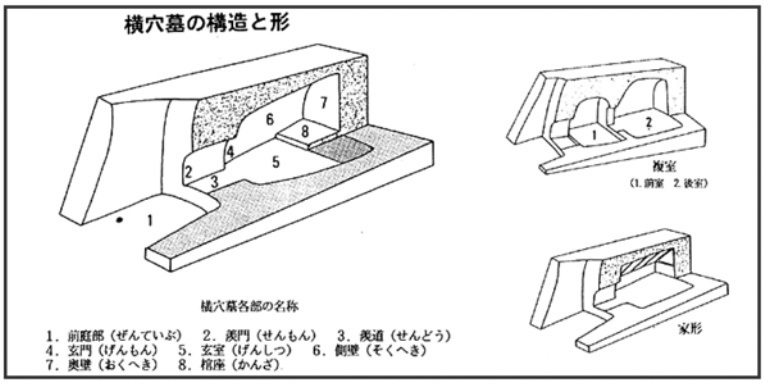
横穴式石室略測図　凝灰岩切石を用いた他に例がない双室構造の石室。



←副葬されていた馬具実測図
金メッキが施された豪華なもの。

横穴墓–群集墳の１類型－

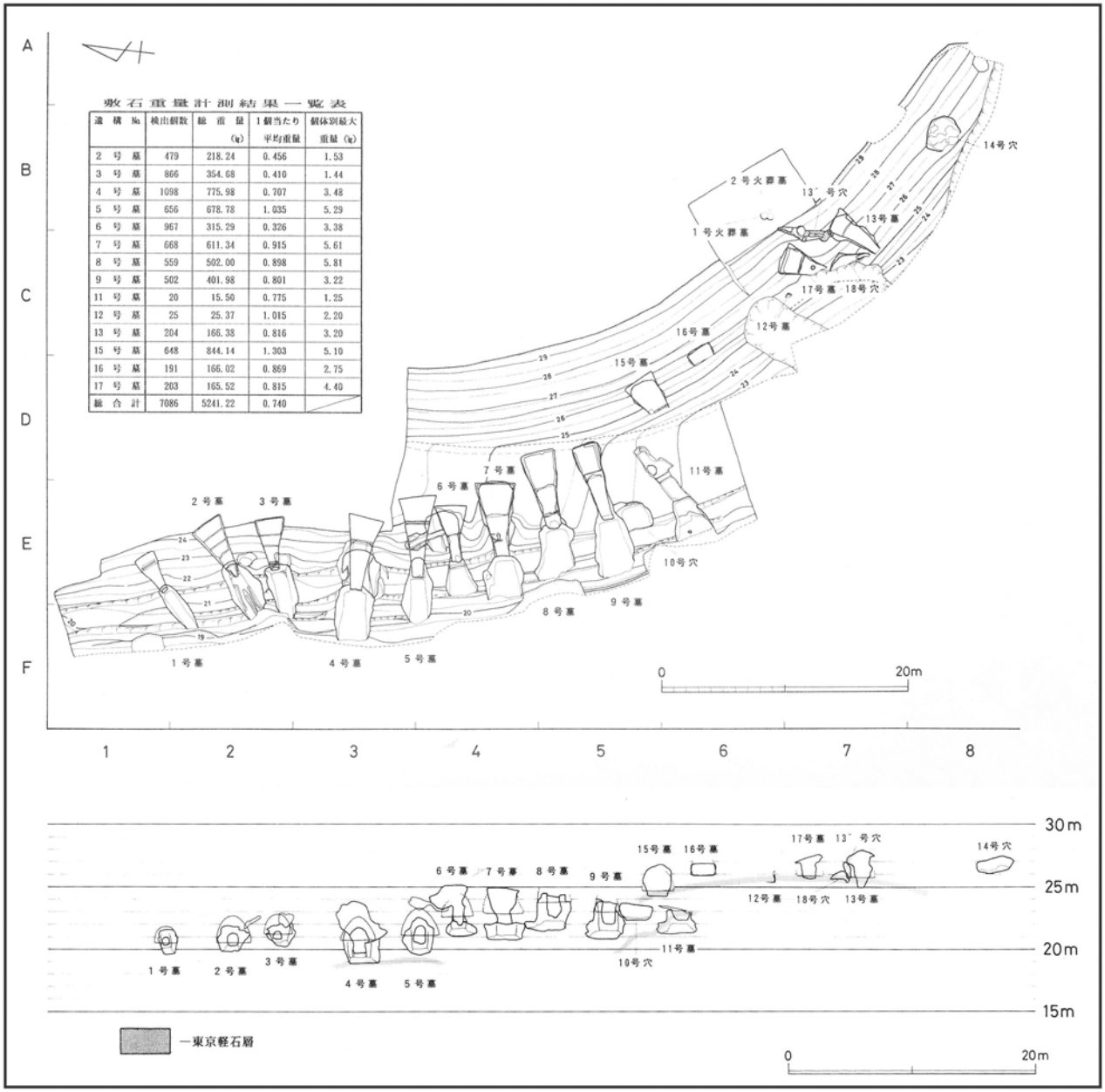
【図12 横穴墓構造模式図】



横穴墓の構造は、基本的には横穴式石室と同様で、平面構成は、玄室・羨道・前庭部（墓前域）からなる。横穴式石室は、石を積み上げて造られるのに対して、横穴墓は斜面を横方向に掘削して造られる。形態や遺体安置施設などにバラエティーがあり、地域色も認められる。

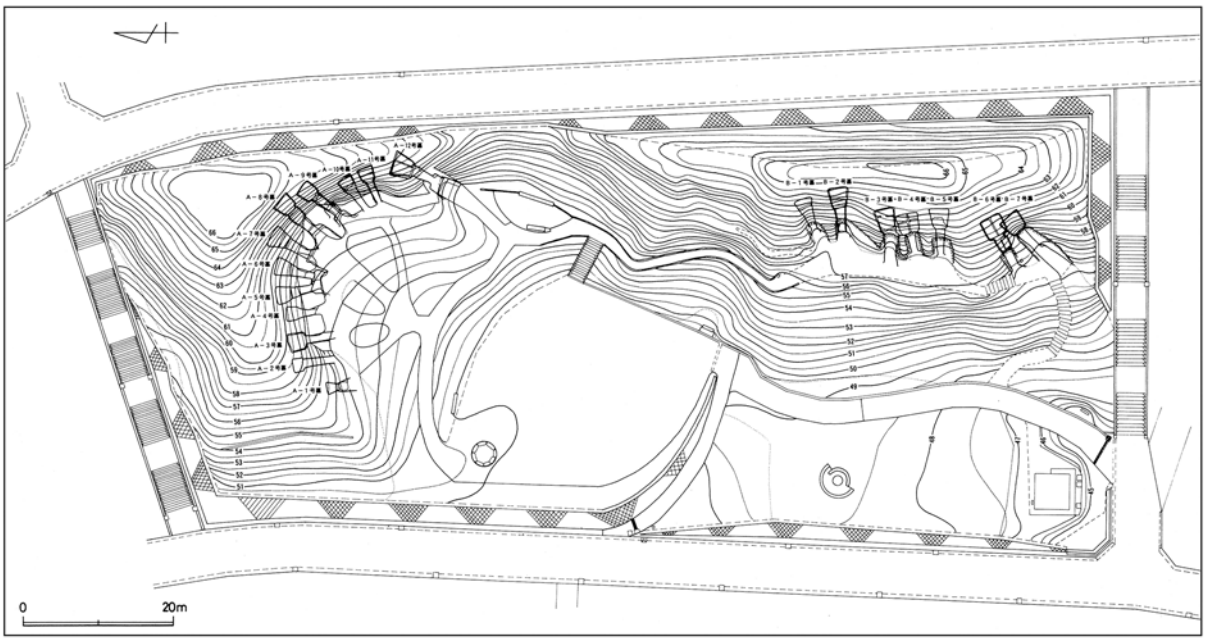
なお、横穴墓は「横穴（群）」・「横穴古墳（群）」などと呼ばれることもある。

【図13 綱崎山横穴墓群（都筑区茅ヶ崎町）】＊文献13



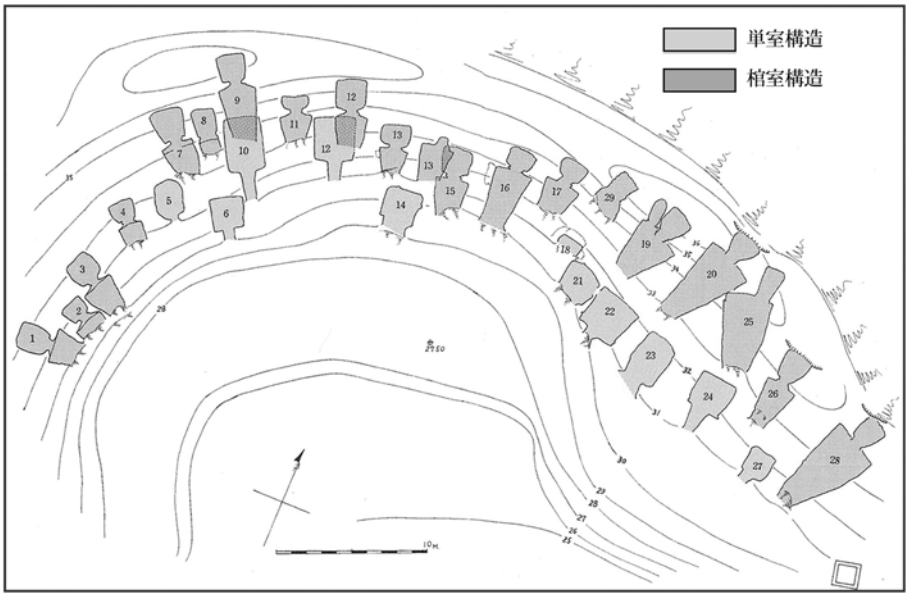
横穴墓群全体図　平面図と正面図から２～３基からなる小さなグループ(単位群)の存在が窺える。東側台地上には円墳が２基存在したが、うち１基は調査後消滅した。調査された１号墳は埋葬施設や年代を示す出土品がなく、詳細は明らかでない。

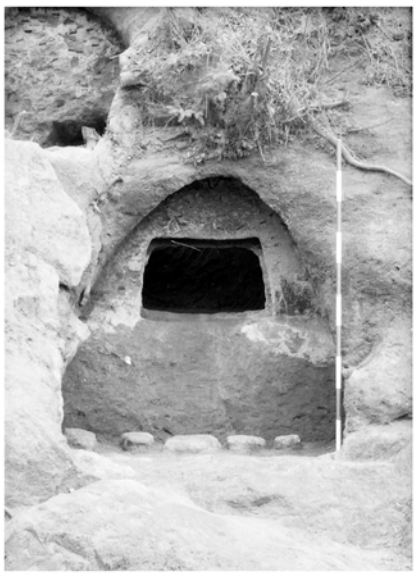
【図14 市ヶ尾横穴墓全体図（青葉区市ヶ尾町）】＊文献14



【図15 七石山横穴墓A支群（栄区小菅ヶ谷町町）】＊文献18ほか

A支群近景合成写真（南より）





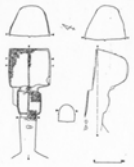
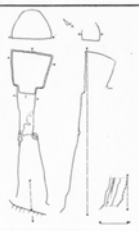
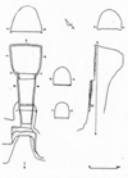
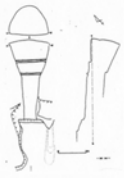
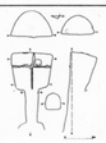
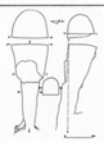
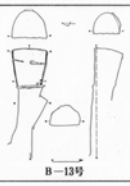
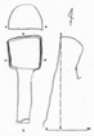
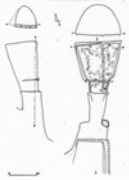
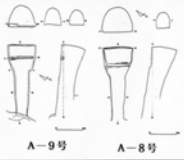
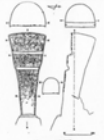
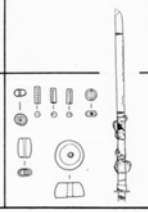
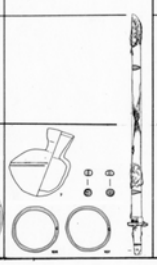
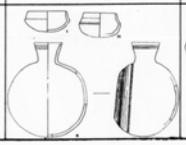
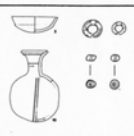
A支群全体図と15号墓　単室構造の横穴墓は下位に位置し、棺室（かんしつ）構造のものは上位に位置する。単室構造のものが旧く、棺室構造のものが新しい。15号墓では、棺室入口部直下に閉塞石（へいそくせき）が落下した状態で見つかった。閉塞石は厚さ10cm程の板状に加工されていた。

＊単室構造：遺体を安置するための空間（玄室）が一つだけのもの。二つあるものを複室構造と呼ぶ。

**棺室構造：単室構造横穴墓の玄室に相当する部分のさらに奥に、遺体を安置するための独立した空間が設けられる構造のもの。閉塞は、棺室の入口部でなされる。

【図16 市ヶ尾横穴墓の形態分類と単位群の変遷案】＊文献14

市ヶ尾横穴墓群—形態分類と単位群の変遷表—

時期区分と形態分類 ＼ 単位群	第Ⅰ期	第Ⅱ期			第Ⅲ期		第Ⅳ期	
	a型	b_1型	b_2型	b_3型	c_1型	c_2型	d_1型	d_2型
B—3群	 B—16号		 B—17号					
A—4群		A—6号	 A—7号			 A—5号		
B—2群		 B—14号		 B—15号			 B—13号	
A—2群		 A—1号		A—18号			A—2号	
A—6群				 A—10号				
A—5群					 A—9号 A—8号			
A—3群					A—3号		A—4号	
B—1群						 B—12号	B—11号	
A—1群							A—19号	
主な出土遺物								

（甘粕　健・田中義昭ほか「第２編　市カ尾古墳群の発掘」『横浜市史』資料編21　横浜市　1982年）による。
なお、同上文献では単位群について以下のようにとらえている。
・Ａ１群……Ａ１～４・18・19号
・Ａ２群……Ａ５～10号
・Ｂ　群……Ｂ—11～17号
＊本表では、これに基づいて単位群をさらに細分してみた。

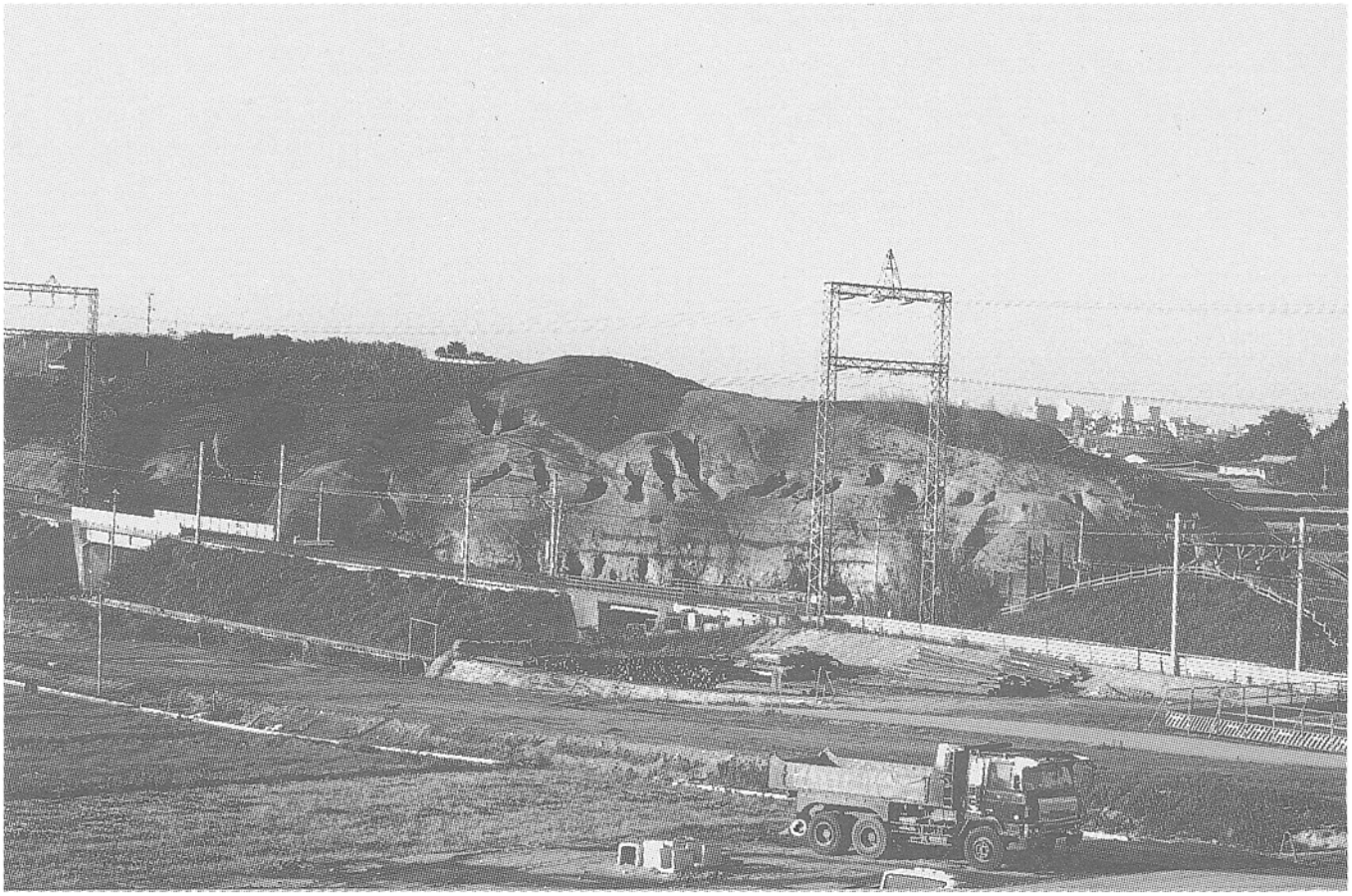
＊発掘調査によって判明した横穴墓の新旧関係
・Ｂ—16号（ａ型）⁉→＊Ｂ—17号（ｂ型）
・Ａ—３号（ｃ型）⁉→＊Ａ—４号（ｄ型）
・Ｂ—14号（ｂ型）⁉→＊Ｂ—13号（ｄ型）

＊平面形態による分類
ａ型……方形様の玄室。
ｂ型……玄門側が奥壁と比べ幅狭になって全体に梯形プランとなるが、袖部は角を明瞭に示す。
ｃ型……玄室の両側壁が玄門に近づくにつれてゆるく湾曲する。角張ったコーナーは失われるが、袖部はその痕跡を残し、玄室と羨道を明確に区別できる。
ｄ型……袖の部分が失われて、玄室と羨道の区別がなくなり、撥形のプランを呈する。

＊構造による分類
単室構造（Ⅰ類）のと複室構造（Ⅱ類）のものがみられ、Ⅱ類はａ型・ｂ型にのみ認められる。

＊内部施設の属性による分類
・１……羨道奥に設を有するもの。
・２……はめ込みの間仕切りを有するもの。
・３……作り出しの間仕切りを有するもの。
・４……棺座を有するもの。

【図17 古墳と横穴墓群】＊文献11

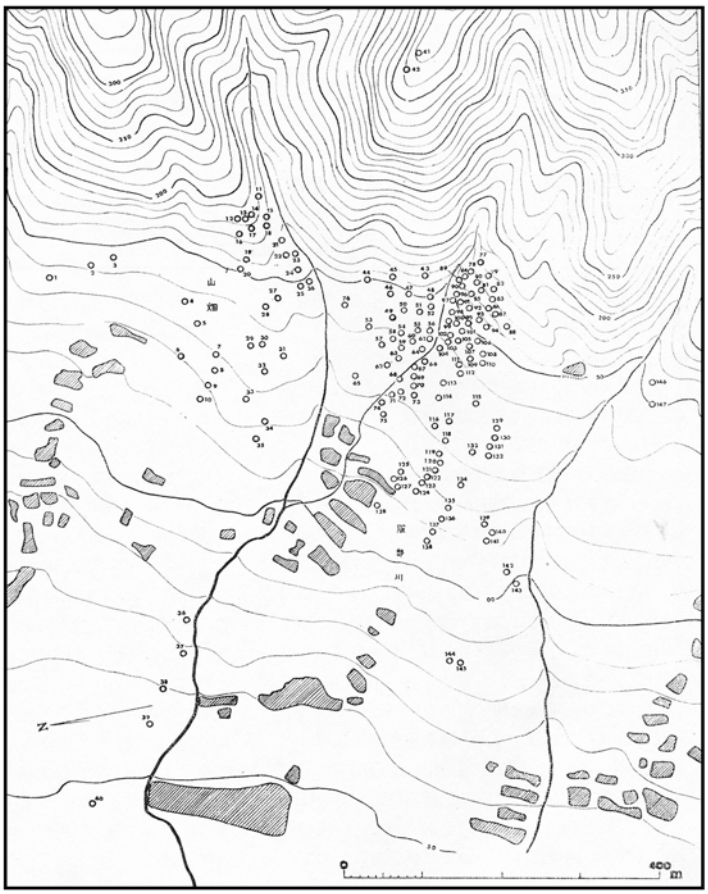


1　赤田２号墳と赤田横穴墓群（南西より）　赤田横穴墓群は、大きく中段と下段に分かれて営まれている。

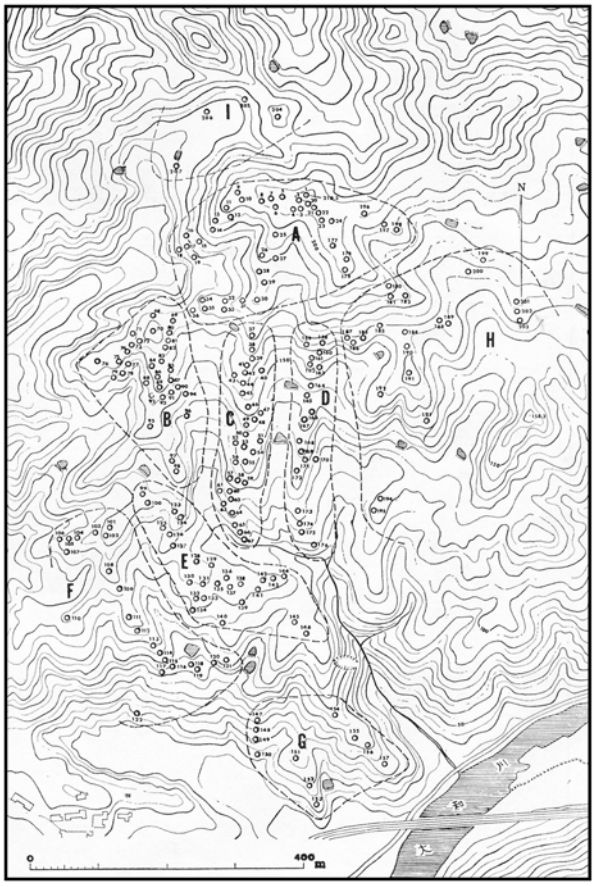
2　軽井沢古墳と宮ヶ谷横穴墓群（南西より）　校舎右端上方に８基程開口する横穴墓群が見える。軽井沢古墳は画面中央やや左手に位置する。昭和９年（1934）頃撮影。　横浜市立宮谷小学校所蔵 絵はがき

西日本の後期群集墳

【図18 高安千塚古墳群（大阪府八尾市）と平尾山千塚古墳群（大阪府柏原市】



1　高安千塚古墳群全体図　標高484mの高安山西麓に営まれた後期群集墳。標高50～180mに300基以上が分布する。



2　平尾山千塚古墳群全体図　生駒山地南端の大和川を望む標高40～210m付近を中心に分布している。現在では約1,400確認されているといわれる（柏原市HP）。

【ま　と　め】

・西日本を中心として、各地に後期群集墳が営まれています。しばしば「○○千塚」などと呼ばれます。
・横浜市域では後・終末期の古墳が群集して営まれることはありませんでした。
・横浜市域では、優に300基を超える横穴墓が造営されています。地域により分布に粗密があります。群の構成は、単独で存在するものから数十基で構成されます。
・数十基で構成される横穴墓群は、群集墳に対比されると考えられます。
・横穴墓群の内容を検討すると2～３基程が小グループ（単位群）をなしています。
・横穴墓群中の単位群は、横穴墓をつくり得た家族が数代にわたってつくり継いだものと考えられます。
・横穴墓群が営まれている丘陵上に、ほぼ同時期の古墳が存在する例があります。その古墳は、前方後円墳もあれば円墳もあります。
・横穴墓には、副葬品が古墳のものと遜色ないものが出土する例がありますが、古墳が盛土によって築かれ、外観を重視するところからも、横穴墓の被葬者とは身分の違いがあり、より優位な立場の人物と考えられます。